

第 16 回マルチモダリティシンポジウム Versus 参加報告

華岡青洲記念心臓血管クリニック 山口隆義

皆様、こんにちは。華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。Versus に行って参りました。とは言っても、私自身の出番はなく、一聴講者としての参加です。今回のテーマは「心臓 Update」でしたので、行かないわけにはいきません。いつも Versus は土曜日の午後開催なので、ちょっと交通費はかかりますが当日の午前中移動で楽々参加可能です。2009 年に「心臓再考」というテーマで開催されてから 9 年ぶりとなった今回は、核医学に超音波、CT、MRI に加えて IVR も加わり、各モダリティの最新情報が紹介されていました。実は、その 9 年前、私が CT のシンポジストとして講演させていただきました。そこで使用したスライドを振り返って見てみると、私自身が北海道社会保険病院にお世話になって 1 年位で、1 ヶ月に冠動脈 CT を 150 件くらい撮影していた時期でした。当時は 64 列 CT が最先端で 2 管球 CT が少し出回っていたような時代で、ようやく安定した画像が得られるようになり、冠動脈 CT がどんどん普及し始めた頃であったと思います。私の方からは、冠動脈 CT の特徴であるプラークの評価に加えて、先天性の奇形や弁評価、石灰化スコアの有用性、心機能評価、心筋遅延造影、そして prospective gating による被曝低減について話をしていました。

今回の CT 担当は順天堂の木暮さんで、CT-FFR のお話が中心でした。CT-FFR はキヤノンメディカルが提供するオンサイトで解析が可能な方法で、現在は共同研究という形で幾つかの施設で稼働しています。自施設で出来る一方でマニュアル補正の手順もあるため、解析の安定性が心配されますが、お話の中では、短いトレーニングを加えることで安定した解析が可能になると論文を交えて報告されていました。いよいよ、冠動脈 CT も形態から機能評価まで幅広く用いられる時代になってきましたね。当院でも CT-FFR 頑張っていますので、機会がありましたら報告させていただきます。

教育講演は、愛媛大学の望月先生からの「循環器疾患の治療につな

がる画像診断」というご講演でした。いつも通り、大変わかりやすく解説され、CTおよびMRIの理解が深まるご講演でした。

Versus といえはディスカッション。色々なお題に対しての回答を各演者が用意するなど、とても興味深く拝聴しました。診療報酬改定もあり、FFR等の機能評価が注目される中、心筋バイアビリティに関する考え方、そして虚血評価で有意とならなかった中等度狭窄の危険性について、私の方から意見を述べさせて頂きました。今後は、改めてプラーク評価が注目されると考えています。

会終了後は、お楽しみの情報交換会。各シンポジストの皆様ともお話しさせて頂き、CT以外の機器に関する色々なアドバイスも頂きました。このような場に来られる診療放射線技師は、皆さん元気がありますね。来年は大阪開催だそうですよ。